

第2回総会盛大に開催!

こまざわ経済通信

発行

駒澤大学経済学部
同窓会

〒154 東京都世田谷区
駒沢1-23-1

会場にあふれた笑顔 一九九九年の再会を誓う



十一月三十日(土)、第二回経済学部同窓会が開催された。

三年前の第一回総会と比べるとやや少ない出席者であったが、逆に和気あいあいと交流が深められ、大変有意義な一日であった。

総会は、議長団の選出、事業報告、収支報告、予算・役員選任・解任、会則の変更と滞りなく進行した。新生同窓会初代会長として三年間の任期を無事務めた大下剛史氏(42年卒業・プロ野球解説者)の後を受け、新会長には勝場政範氏(31年卒業・勝和社長)が就任した。

総会に続き、櫻井秀雄総長から、人間とは何かを自覚する駒澤大学の教育目標を、雨宮真也副学長からは大学の発展には、学生・教員・地域社会(OB・OG)の連係が不可欠との話を賜り、同窓会の意義、結束を再確認し、さらなる強化と継続を誓った。

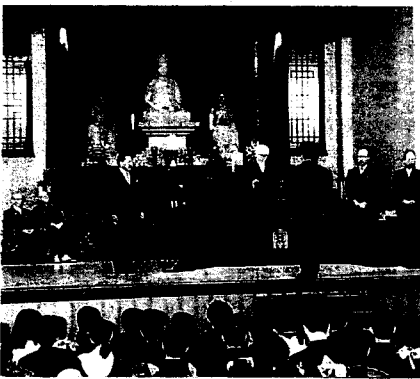
記念講演は、「地震と都市防災」をテーマにNHK解説委員の伊藤和明氏による

もので、身近で誰しもが興味のある話題のため、極めて好評であった。
この日の最後は、大学会館食堂二階での懇親会で、大変盛り上がった。懐かしい仲間の顔もあれば、現在の経済学部の先生の顔もあって、まさに同窓会の意義が凝縮されている時間であった。笑い声、会話、学生時代を同じキャンパスで過ごした一体感は何物にも変えがたいものである。

福引大会も行われ、七草厚司氏(47年卒)が見事一等賞品の自転車を引き当てた。総会この日、正門から壁に沿って並べられたプラントの花々が同窓生たちを迎えた。プラントには「経済学部同窓会」の文字が刻まれ、同窓生たちの目を引いたが、これは同窓会が出資して、副会長を務める谷数正光先生とそのゼミ生たちが世話をしている「学内花いっぱい運動」の成果であると知ってみな納得顔であった。

経済学部同窓会は、三年毎に開催する。
三年後には、現在二年生以上の学生が卒業するため、三、四九四人もの新会員が誕生しているはずである。新生同窓会としてスタートした現在、新会員た

祝ご卒業



経済学部の皆様、ご卒業おめでとうございます。
晴れて社会人となられる皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
また、皆様は経済学部同窓会会員となります。我々一同心より歓迎いたします。一九九九年となってよりよい同窓会活動を作り上げましょう。(関連記事2面)



ちの参加を待ち望んでいる。今回の総会に出席した会員たちは、次回、一九九九年の再会を誓っていたが、若し会員たちの考えを取り入れ、新しい魅力をも備えた総会を実現したい。皆様のご協力を賜りたい。

人達喜

「助さん格さん、黙らしてやりなさい」ご老公の一言で大立ち回り、悪人たちがやっつけ

己反省をする毎日である。

第二期 経済学部同窓会 役員・各代会幹事等

経済学部同窓会 役員会

会長 勝場 政範
 副会長 二宮 至 監査 鈴木 堅蔵
 副会長 谷敷 正光 監査 川崎 諭
 副会長 清水 左京 相談役 石川 京英

総務部会

◎伊藤 吉次
 ・張替 伝
 ・石塚 武
 ・小林清次郎
 ・水上 昭

催事部会

◎斎藤 但
 ・石原 啓延
 ・北沢 文彦
 ・小堀 由里
 ・大内 勝蔵
 ・中島 隆

広報部会

◎佐藤 均
 ・勝場 啓二
 ・水間 伸三
 ・鳥居 博
 ・大沢 隆司
 ・浜門 真吾

財務部会

◎勝山 強
 ・加藤 慎一
 ・河野 哲也
 ・池嶋 良一

組織部会

◎松下 誠之
 ・伊藤 文雄
 ・橋本 貞和
 ・山下 宜秀
 ・吉沢 道雄
 ・杉原 哲男

学外幹事

萩野谷晴弘
 安藤 博昭
 安藤 良則
 飯田 昭二
 古屋 孝
 吉村桂太郎
 矢尻 和範

田中 秀人
 藤園 直志
 松田 茂
 川村 稔
 小林 洋子
 森谷 盛生
 三谷 睦之
 今泉 智浩

明瀬 政治
 平田 次弘
 川路 龍也
 塚本 賢一
 服部 尊光
 小島 桂二
 小谷野浩治

小田 幹雄
 田坂 勝広
 山田 憲彦
 新山 文明

松村 嘉耕
 川辺 貞士
 山崎 亘
 塩田 仁士
 三ツ木俊之
 林 宏
 川名佐登志
 加藤 良彦
 内野 敏彦
 麦倉佳津仁

学内幹事

大淵 勝博
 荒井 幸雄
 江口 勝浩
 竹内 正允
 松村 博
 藤井 道廣
 土井 裕一
 清水 昭道
 奈良田 忠
 大津 勝博
 柿沼 富雄
 土屋 道
 川合 竜一

上田 栢生
 菅野 文夫
 水谷 延久
 大野 利彦
 関 淳一
 室田 礼子
 石川 智恵
 瀬戸 孝尚
 関 直純
 濱口 勲

実松 俊辰
 仁王 聖雄
 田中 泰明
 生方 盛次
 白倉新治郎
 海老沢正範
 松本 亨
 三田 佳男

沢口 洋一
 上原 英典

二瓶 晃一
 高橋 誠雄
 宮下 正修
 柴田 靖枝
 中山 靖枝
 高橋 喜瀬雄
 秋沢 英策
 養島 正博
 阿部 博則

(◎)は部会長、(・)は副部会長、この両者は、代表幹事として役員会の構成員となる。

経済学部同窓会会費納入のお願い

【年会費については、3年を1単位として納入する方式に致しております。】

会費納入額と納入時期は以下のとおりです。

- ◇平成9年11月(平成9年3月卒業生および既卒者の新規加入)
平成9年度～10年度(1年分2,000円×2年度分)=4,000円
- ◇平成10年11月(平成10年3月卒業生および既卒者の新規加入)
平成10年度分(1年分2,000円)=2,000円
- ◇平成11年11月(平成11年3月卒を含む全卒業生:第3回総会開催時)
平成11年度～平成13年度(1年分2,000円×3年度分)=6,000円

◆会費については同封の振込用紙にて郵便局から納入下さいますようお願い申し上げます。

各種連絡・振込等には会員番号を忘れずに

これまでに駒澤大学経済学部を卒業した同窓生は約43,000人になります。しかし卒業後に同窓会への異動連絡がなかったために連絡が不可能になる方が例年、後を断らず開催通知の発信人への返送等も非常に多くなって来ております。また連絡を頂いても住所と名前だけで事務処理が非常に困難です。経済学部同窓会事務局への異動等の各種連絡や会費の振り込み等に際しては必ずFaxまたは郵便等文書で、同窓会会員番号、卒業年月を忘れずに記入して下さい。

【みなさんの会員番号は、総会開催通知の封筒に記載されている番号です。】

例:○○○-○○-○○○○○○ 141-93-123456



経済学部同窓会長 勝場 政範

積極的に活動の強化と継続を!

新会長あいさつ

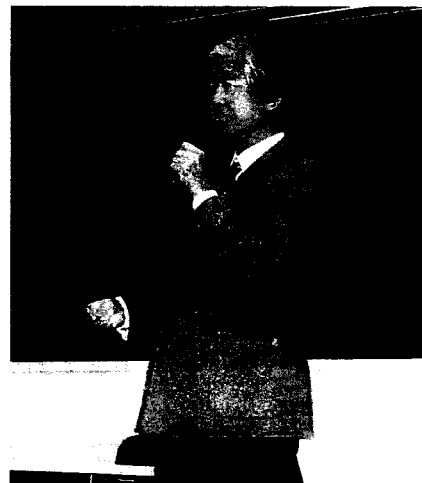
経済学部同窓会の皆さん
 第二回総会は平成八年十一月三十日に滞りなく終了いたしました。
 総会までの過程で櫻井総長はじめ学内教職員並びに大学同窓会事務局のご理解と学内外の同窓会役員と幹事による奉仕活動と協力に對し役員一同を代表してお礼を申し上げます。
 なお、会費の納入並びに

総会当日ご多忙のところ、ご参加下さいました会員の方に改めて心より感謝申し上げます。
 米国と英国が痛みを伴う改革と変革により長い苦しいトンネルからようやく抜け出し、日本も遅ればせながら、あらゆる分野でシステムの改革と変革が各論に突入しようとしております。一時期痛みを伴う混乱はありますが必ず新しい希望に満ちたシステムと方向性が生まれることを確信しております。現在盛んに産学教育が叫ばれておりますが、今、アメリカを始め先進国に不足しているものは、新しい

競争時代の「和」の精神だとも言われております。人づくりすなわち人材育成こそが急務となっております。駒澤大学も具体的に充実した新しい時代の目標に向かって前進して行くものと思っております。
 同窓会活動も従来のあり方の延長線上でよいのか、マルチメディアの時代に情報もスピード化と近代化が叫ばれている現在、人海戦術ではなく「支部組織」のネットワークを通して効率的な運営を展開することが求められております。
 多様化する社会のさまざまな職業の中で働く皆さん

も、年齢層と地域によって同窓会に求めるものが多様化しております。
 任意団体の同窓会活動を維持継続していくことは、名簿等の情報管理・財務・労務等各分野で困難なものがああります。しかし、経済学部同窓会は、現在、大学同窓会事務局が促進している「支部組織設立」の動向を支援しつつ、学内外の経済学部OBの役員により「経済学部同窓会」の強化と継続について積極的に取り組み検討を進めてまいりたいと考えております。したがって一層のご協力をお願いいたします。
 その上で、早い時期に学部を越えて時代が求める「同窓会」の一本化ができることを願っております。

とを願っております。
 同窓会事業経費のうち郵送料の占める割合が非常に大きいにもかかわらず現在正確な名簿の把握が不十分であることが一番の悩みとなっております。是非、この「紙面」をかりまして、会員の皆様にご協力願いたいことは、知人の現住所と電話番号等を大学同窓会事務局までハガキか電話またはFAXでご連絡していただければ幸いです。



N.H.K.解説委員・伊藤和明氏の記念講演(総会時)

西村紀三郎先生ご退官 ～エネルギーシユな最終講演～



一月三十日、駒澤大学中央講堂において西村紀三郎教授の最終講義が行われた。講義は「大学生活四十余年」と題し、駒澤大学との出会いから、今日までのさまざまな思い出が中心であった。思い出といっても過去を懐かしむばかりでなく、常に駒澤大学の発展のためにはどうあるべきかという先生の考えが述べられ、退職する先生の最終講義とは思えない、エネルギーシユで前向きな話であった。

教員になる前、大蔵省勤務時代のあだ名が「ノーマン」というのもおもしろい。何にでもNOという人間だったと自己分析なされた。

大学教員となってからは様々な体験をし、学生運動盛んな時代には、刷新委員会を提案、教職員ともども学園の正常化に尽力された。また、若くして学部長の大役を務め、教務部長、図書

館長も歴任された。これらすべてが、自分から選んだ道ではなく、誰かに頼まれ「やらされた」ものばかりだといふ。しかし、それぞれの経験はすべて自分にプラスになったと語るのが西村先生らしいところ。学部長では、人の意見をまとめる難しさを知り、自分の意見に責任を持つようになり、教務部長、図書館長の時には、多くの職員と接し、お互いの立場、考え方がわかったことで、以後の仕事が格段にやりやすくなったなど、西村先生の人柄があらわれている話ばかりで、感心しながら拝聴した。

一方、空手道部の部長を長年務められたことも先生にとっては大きな事だったようだ。

年に一度行われる、大学から鶴見・総持寺までのマラソンでは、学生達に交じって先生も走られ、見事完走された話は有名であるが、この時先生は四十六歳、学生達はリタイヤしたくてもするわけにいかずさぞや辛かったことであろう。ここでも先生はプラスの要素を

見つけた。学生サークルの部長を務めては自分の研究の時間がなくなるなどと考えてはいけぬ。初めて鶴見まで完走した年には、気力、体力が充実して、その夏だけで一冊の本を書き上げたそうだ。サークル部長も研究に役立つ。これが先生の持論となった。

先生のご専門は「財政学」で、多くの卒業生を送り出して、先生の授業ぶり

している。先生の授業ぶりを思い起こす卒業生も多いことと思う。先生が大学院で指導した院生は百五人を数え、三十人が税理士・会計士になり、十人が大学・短大で教鞭をとっているという。

これら多くの先生のご功績に感謝し、今後のご活躍を祈念したい。



晴天の玉川グラウンドに学生達の生き生きとした歓声が上がる。白球が青い空高く飛び、気持ち良さそうに舞い降りる。普段の教場とは違った、学生達の顔、先生の顔、満足そうな同窓生たち。

十一月二十三日、経済学部ゼミ三十六チームと同窓生一チームが集まった経済学部ソフトボール大会は大成りに終わった。開会式に引き続き午前十時にプレイボール。照明が設置されたために、時間に余裕が生まれ、一試合の試合時間も

長めにとれるために、以前の慌ただしさが無く、思いっきりプレーを楽しむことができた。

学生達にまじって、多くの先生の姿を見ることができた。自らチームの中心となつて華麗なプレーを披露する先生や学生達に大きな声援を送り続ける先生もいて、教場とは違ったコミュニケーションの場として大変有意義な大会であった。

同窓会のメンバーは、テント設置などの試合の準備に携わると共に、先生方とチームを組んで参戦。見事一勝をあげるなど、秋の一日を大いに楽しんだ。

大会の進行には谷敷先生の教職ゼミの学生達が当たり、実にスムーズに大会は運営された。閉会式は午後七時から行われ、最後まで臨席された里中経済学部長から上位6チームに表彰状と賞金が手渡された。

優勝は谷敷三年ゼミ、準優勝は三井三年ゼミであった。この大会は、毎年行われる

◆パーティーでも熱弁◆
最終講義後、経済学部の主催で、パーティーが開かれた。会場となった第二研究館二階会議室には、経済学部の先生たちのみならず、他学部の先生、職員、卒業生などが集まり、話に花を咲かせた。ここでも西村先生は、今の政治を立て直すための二つの提案をなされるなど、実に意欲的であった。

◆ナイトゲーム可能◆
玉川校舎グラウンドに照明機が設置されたのは平成七年のこと。以前は、日没までに多くの試合を消化するためには一試合三十分が限度、試合時間を長くすると参加チームが減るといふジレンマがあった。この照明機のお蔭でこの問題は見事解消した。

◆得意のポーズ◆
この日、一番グラウンドではりきっていた先生は、大吹勝男先生と西村紀三郎先生。大吹先生は、学生達に囲まれ精力的に動き、試合の合間の練習時には、得意のポーズ(写真)も披露した。

西村先生は、試合中ずつとボール拾いを務めていた。グラウンドが陸上競技場でバックネットが無いので、先生自らがかつて出たのだが、その若々しい姿は輝いていた。



箱根駅伝復路新記録で優勝

出場31年目で初栄冠、総合6位でシード権獲得

駒大 キャンパス情報

一月二、三日に行われた第七十三回東京箱根間往復大学駅伝競走大会において、本学陸上競技部は、五時間二十七分八秒の大会新記録で復路優勝を果たした。昭和四十二年の初出場以来、三十一年目の初優勝であった。往路は九位、総合成績は六位、年頭を飾るにふさわしい活躍であった。

箱根の山を駆け降りてきた河合芳隆が笑顔で七区の大西雄三にタスキリレー。「やったぞ！1時間を切った」河合の声が弾んでいた。区間二位、この日の駒大の快進撃を予感させる快走であった。八区の北田初男と九区を走ったチーム唯一の四年生山下秀人(経四)が、それぞれ区間二位という好

東京箱根間往復大学駅伝競走



上復路新記録V、ゴールの瞬間
下：九区を力走する山下選手(経四四年)

記録で順調に順位を上げていった。前日往路は九位。復路は来年のシード権獲得のボーダーラインという順位からのスタートだったが、九区途中で総合六位に浮上した駒大は、シード権を確実なものとするともに、今度は復路優勝の可能性が出てきた。そして、十区松本直人が1時間7分を切れ

復路新記録との情報が流れ、さらにチームは盛り上がった。この期待に松本が見事に応え、やはり区間二位の快走。5時間27分8秒の復路新記録で見事初優勝を果たした。総合順位も六位と来年のシード権を獲得した。

往路は一区藤田幸則が区間六位ながらトップとは20秒差の健闘をみせた。二区藤田敦史は途中、山梨学院の中村選手と併走し頑張りを見せたが、三日前に痛めたケガの影響もあって区間七位に終わった。それでもこの時点でトップと1分31秒の差。まだまだ上位を狙える。この後、三区西田隆雄区間十一位、四区足立康光が区間六位でトップと一目瞭然である。

は七位でのゴールかと思われた。しかし、五区吉田慎一が中盤から遅れだし、脱水症状を起こしてしまい、ゴール手前で東海大、順大にぬかれ結局往路は九位でゴールした。吉田は区間十五位であった。

箱根駅伝の二区を走った駒大のエース藤田敦史は大会の三日前にアキレス腱周囲炎のケガをしてしまっ

た。実力のある選手しか走れない難コースの二区。トレナーがつきつきりて治療。当日の朝、出場を決めた。いっ痛みだすか分からないう不安の中で走る。途中山梨学院大の中村と併走し先頭集団に追いつく頑張りを見せたが、ちょうど難所の権太坂が始まるという不運もあり、自棄した。しかし、各校のエースが走る二区を区間七位で走破した頑張りには拍手を送りたい。

参加校中1万メートルの平均タイムが2位というスピードを証明した大会であったが、同時に、強烈な向かい風、ケガ、脱水症状など思いがけないアクシデントを制する難しさを感じる大会でもあった。

投稿のお願い
この「こまざわ経済通信」は経済学部同窓生のコミニケーションの場です。同窓生であれば、どんなでも、どんなことでも投稿いただけます。発行日に関係なく投稿をお待ちしています。

連絡先
経済学部同窓会広報部(浜門宛)
〒一五四 東京都世田谷区駒沢一―二三―一
電話 (03) 3418―9049
FAX (03) 3418―9050
駒澤大学広報部内

★書道部
書道部学生が催す書作展(校外展)が30回目を迎えたことを祝い、OB会が主催して記念パーティーを開いた。会場の日本関東中野店に約100人が集まり、旧交を温めた。

★スキー部
スキー部OBが11月30日18時から銀座ジョン万次郎で開催された。第2回経済学部同窓会に出席した後、OB20人が連れ立って会場へ向った。時の過ぎるのも忘れ、尽きることのない話題で盛り上がった。

OB会たより
経済学部同窓会開催にあわせて2つのクラブがパーティーを催した。



駒澤大学書道部書作展 第30回記念パーティー



駒澤大学スキー部OB会